

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

選択・論述・計算・記述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

語句挿入ではなく、選択の問題が増加した。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野 (テーマ)	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 論述 計算	天文 銀河系	地学	複雑な計算問題はほとんどない。計算不要で答えられる問6(2)(3)のような問題もある。	標準
II	記述 論述 計算	大気 空気塊の運動	地学	問3は、計算そのものは煩雑ではないが、(3)は丁寧に、問2、問4は簡潔にまとめたい。	標準
III	選択 論述 記述	地球物理 地震波	地学	問1、問2の選択は容易。比較的短い論述問題は確実に得点したい。	やや易
IV	記述 論述 選択	地質・地史 地質図	地学	問4、問6の論述問題をしっかり解こう。結果に大きく影響しそうである。問5は深度を正確に答えよう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

従来から京大地学の入試問題は、論述計算問題の比率の高さ・質の高さが強調されていたが、ほぼ3年連続でやや易化傾向である。この傾向は今後も続くとは言い難いので、教科書や資料集をよく読み、論述問題や計算問題の練習を繰り返し、論述力・計算力を高めておこう。